

2021年度入試の問題分析

① 出題形式

解答形式は、公募制推薦入試および一般選抜のすべての試験でマークシート形式であり、空欄にあてはまる整数を0～9の中から選ぶ形式である。試験時間は、公募制推薦入試は60分、一般選抜は70分である。

② 出題分野

数学の出題分野は、学科や日程によって異なるため、注意が必要である。日程ごとの出題分野は、以下の通りである。

- ・公募制推薦入試、一般選抜 前期日程(2科目型)、一般選抜 後期日程
「数学Ⅰ・数学A」または、「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B(数列、ベクトル)」のいずれかである。
- ・一般選抜 前期日程(3科目型)
「数学Ⅰ・数学A」または、「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B(数列、ベクトル)」、「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B(数列、ベクトル)」のいずれかである。

③ 出題内容と難易度

大問Ⅰ、Ⅱの試験問題と大問Ⅲ～Ⅳの試験問題があるが、大問Ⅰは独立した小問の集合問題となっていることが多い。一般選抜 後期日程のみ、独立した各問に枝間がある形式となっている。大問Ⅲ以降は、大問形式の問題となっていることがほとんどである。

いずれの日程でも、問題の難易度は教科書の章末問題と同程度であるが、思考力や応用力が必要とされる問題も出題される傾向にある。

学習アドバイス

① 出題範囲の各分野を偏りなく学習しよう

全日程を通して見ると、本学の試験では、試験ごとの出題範囲から分野の偏りなく出題されている。教科書の内容に基づいた標準的な問題も多いため、これらの問題では確実に得点するようにしよう。また、思考力や応用力が必要な問題も出題されるため、このような問題で得点に差がつくと思われる。しかしながら、問題の難易度としては教科書の章末問題と同程度であるため、教科書の内容を確実に理解し、教科書傍用問題集の問題や過去のセンター試験の問題などを繰り返し解いて実力を養うことが、本学へ合格するために重要であろう。

② 誘導形式の大問に慣れておこう

普段から問題を解く際には、問題で求められている答えを出すために、「何を変数とするか」、「どのような手順で解くか」などを意識しながら解いていこう。また、一つの大問に複数の小問があるような大問形式の問題の場合、誘導に沿って答えを求めていくことが多い。誘導形式の問題を解く際には、「前問の解法や結果を利用することができないか」などを意識しながら解いていこう。

③ 時間配分を意識しよう

本学の試験時間は、公募制推薦入試は60分、一般選抜は70分である。問題数に対して十分な時間があるわけではないため、一つの問題に時間をかけすぎると、全問を解くのは厳しくなる。試験の際には、試験問題全体の中から、取り組みやすそうな問題や得意分野の問題を優先的に解いていこう。また、解く手順がすぐに思い浮かばないような問題の場合、後回しにして、別の問題を解くのがよいであろう。普段の学習で時間配分を意識しながら問題を解くことは少ないと思われるが、時間を測りながら過去問を解くなどして、時間配分を意識する練習をしておこう。